



第6学年1組 体育科学習指導案

令和5年11月17日(金) 第5校時 体育館
男子 18名 女子 17名 計 35名
三郷市立彦成小学校 教諭 井上 慎一郎

1 単元名 「我ら、最強の鉄棒集団（最高の組み合わせ演技へ）」（鉄棒運動）

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- 基本的な上がり技や支持回転技、下り技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- できるようになった技を連続したり、組み合わせたりして楽しむことのできる運動である。
- より困難な状況の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びのある運動である。

(2) 児童から見た特性

楽しさや喜びを感じる要因	鉄棒運動を遠ざける要因
・新しい技ができるようになったとき ・仲間との学び合いや、励まし合いによって、高め合うことの喜びを感じたとき	・技ができるようにならないとき ・手のひらや膝裏に痛みを感じたり、落下する恐怖を感じたりするとき

3 児童の実態

(1) 知識及び技能

①体力の実態（新体力テストの結果より）

	項目	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本学級平均値	21.89	28.11	47.33	48.72	69.56	8"59	179.78	27.44
	県標準値	19.46	23.84	37.84	48	65.85	8"85	168.18	25.05
	県標準値との比較	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	本学級平均値	23.29	23.47	50	46.29	51.94	8"58	174.71	17.17
	県標準値	19.42	22.79	43.58	45.9	54.92	9"08	161.92	16.03
	県標準値との比較	○	○	○	○	×	○	○	○

②鉄棒運動技能調査（令和5年 8月 30日実施）

番号	逆上がり	膝掛け振り上がり	後方片膝掛け回転	前方片膝掛け回転	抱え込み前回り	後方支持回転	前方支持回転	両膝かけ振動下り	転向前下り	踏み越し下り	番号	逆上がり	膝掛け振り上がり	後方片膝掛け回転	前方片膝掛け回転	抱え込み前回り	後方支持回転	前方支持回転	両膝かけ振動下り	転向前下り	踏み越し下り
1	○	○	○	○	○	○	○		○		19	○	○	○	○	○	○	○		○	○
2								○			20	○	○	○	○				○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5		○	○						○		23	○	○						○		
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	24	○	○	○	○		○		○	○	
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○					○		26	○	○	○	○	○	○			○	
9	○	○				○		○	○	○	27	○	○	○	○				○	○	○
10	○	○						○	○	○	28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	29	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	31	○	○	○	○	○	○			○	○
14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	○	○	○	○		○		○	○	○	33	○	○	○	○	○		○	○	○	○
16	○	○	○	○	○	○	○	○	○		34	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	○	○	○						○		35	○	○	○	○	○	○		○	○	○
18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											

鉄棒運動の技能に関する調査を行ったところ、以上のような結果となった。

本校では、6年間を見通して作成した器械運動技能指導表をもとに、系統性のある指導を行っている。主な技として、3年生では、逆上がりと抱え込み回り、4年生では、後方片膝掛け回転と前方片膝掛け回転を学習してきた。そして、5年生と6年生の2年間で、後方支持回転と前方支持回転を身に付け、学習した技を組み合わせた演技に取り組むこととなっている。5年生では、後方支持回転に取り組む、組み合わせ技では、足掛け系の技を組み合わせた演技に取り組んだ。組み合わせ技においては、ツバメの姿勢を意識することが大切であり、そのためには、技を始めるときから終わりのつばめの姿勢を意識することが必要であるという知識を習得済みである。技能については、昨年度の段階で、概ね身に付けていたが、まだ技を行うことがやっとといった児童もいるような状況であった。

上記の鉄棒運動技能調査の結果から、本学級の児童は概ね高い技能を有しているといえる。ほとんどの児童は、何らかの回転技を習得している状況である。しかし、中には鉄棒が苦手な、満足に取り組むことができない児童もいる。また、膝かけ系の回転技はできるが腕支持系の回転技ができない児童が数名いたり、技ができている児童でも、終末の姿勢が崩れている場合が多く見られたりするの課題である。

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

昨年度取り組んだ鉄棒運動の授業では、友達に試技を見てもらったり、ICTを活用して自分の姿を見たりして、自分の課題を掴む活動に取り組んだ。また、課題を解決するための練習方法を考え、考えたことを友達との関わりの中で実践していくことを通して、思考力・判断力・表現力等を育てていった。1学期に取り組んだ

マット運動の学習では、補助倒立前転に取り組む中で、同じように活動を行ったが、「まっすぐの姿勢になれていないから、壁倒立で練習しよう」と考えて練習に取り組んでいる児童がいたり、「足がまっすぐ上に上がっていないから、感覚づくりの運動の片足くまさんで少しずつ足を高く上げていこう」と考えて実践していたりする児童がおり、思考力、判断力、表現力等の高まりを実感することができた。しかし、中には、自分の課題を捉えた後に、どのようにそれを解決していけばよいのかを考えることができず、闇雲に練習していた児童もいた。また、友達に試技を見てもらうように頼まれても、友達の課題についてどのように表現すれば良いか分からず、考えていることを伝えることのできない児童もいた。

(3) 学びに向かう力、人間性等

愛好的態度	1学期の授業で行った走り高跳びの学習では、どのように踏み切れば高く跳べるか、踏み切った後はどのようなことに気をつければよいかなどについて考えながら、何度も粘り強く練習に取り組む児童が多くいた。
公正・協力	友達と学び合うことによって、互いを高め合うことに対しても非常に意欲的で、協働的な人間関係が形成されつつある。分からないことやできないことを友達に素直に伝えることができたり、困っている友達に誠実にアドバイスをしたりすることができる雰囲気も備わっている。また、よく話し合い、気づいたことをもとに実践して学びを深めている児童も多く見られる。
責任・参画	自分の役割しっかりと果たした後、友達の準備や片付けを児童が多い。また、分担されていない仕事に気付いて行動できる児童もいる。しかし、中にはふざけてしまい、自分の役割を果たそうとしない児童もいた。
健康・安全	準備や片付けにおいては、指導をした直後は安全に気を付けて行うことができるが、時間が経過するにつれて意識が薄れてくる傾向にある。また、1学期のマット運動では、運動に熱中するあまり、前の友達が試技を行っている最中に次の児童がスタートしてしまう場面が見られた。

○体育授業に関するアンケート結果

質問項目	回答	人数	主な理由
1 体育の授業は好きですか。	はい どちらかといえばはい どちらかといえばいいえ いいえ	30人 4人 1人 0人	・運動することが楽しいから ・できないことができるようになると嬉しいから ・器械運動が好きから ・運動があまりできないから
2 鉄棒運動は好きですか。	はい どちらかといえばはい どちらかといえばいいえ いいえ	28人 4人 3人 0人	・できない技ができるようになると嬉しいから ・回る技が楽しいから ・手が痛くなるから ・怪我のリスクがあるから
3 どんな技ができるようになりたいですか。	蹴上がり・伸しつ前方支持回転・ともえ・前方支持回転・ももかけ回転 グライダー・大車輪・両膝かけ回転・横跳び越し下り		
4 学び合いにおいて大切なことはなんでしょうか。	できていることとできていないことをはっきりと伝えること 友達と信じ合うことや、褒め合うこと、協力すること 全員が全力で取り組もうとする気持ち		

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

※本指導案においては、支持系 前方支持回転技群 前転グループ及び後方支持回転技群 後転グループに属する技を「腕支持系」と表記し、支持系 前方支持回転技群 前方足掛け回転グループ及び後方支持回転技群 後方足掛け回転グループに属する技を「足掛け系」と表記する。

昨年度に足掛け系の組み合わせ技に取り組んだことを踏まえて、本單元では腕支持系の組み合わせ技に取り組む。また、昨年度に取り扱っていない前方支持回転を中心技に据えて、全員達成を目指していきたい。そのために、単元の構成を、前半に前方支持回転の習得を中心とする学習、後半でそれを生かして組み合わせ技に取り組む学習とし、知識及び技能の確実な習得を目指していく。

前方支持回転は、①回転半径を大きくしながら倒れ込むこと②タイミングを捉え、回転半径を一気に小さくすること③回転軸を腰の位置で安定させること④手は軽く握り、脇を締め、手首を返して鉄棒を押しながら起き上がることの4つが技のポイントとして挙げられる。

実態調査において、大半の児童が、前方支持回転でも後方支持回転と同様に振る予備動作を行っていたが、それは、前方支持回転には必要のない動作である。この動作を行うことで、反動で上半身が縮こまり、回転半径が小さいままに回転を始める児童が多く、結果的に回転の勢いを生み出すことができない児童が多くいた。また、腕の力だけに頼っているために、回転軸が安定せずに起き上がってこれない児童や、回転半径を小さくするタイミングが掴めず、倒れ込む上半身の勢いをうまく下半身に伝導できない児童が多くいた。これらの課題を解決するために、感覚づくりの運動において、腕支持の姿勢から大きく倒れ込んで行う前回り下りや、脇を締める(肩関節の伸展)感覚を養う様々な運動、抱え込み前回りなどを取り入れていくことで、姿勢を伸ばして回転半径を大きくすることや、鉄棒を腰に当て、回転軸を固定することの感覚を身に付けられるようにする。

感覚づくりの運動で取り組ませる、跳び上がり一振り下りについては、脇を締めることで体を鉄棒に引き付けていくことに意識を向けさせるようにしていく。そのために、鉄棒からなるべく遠い位置に立って、肩関節の伸展の力を利用させるようにする。これにより、本單元で取り組む前方支持回転に必要な脇の締めと鉄棒を押しながら起き上がってくる感覚を養えるようにする。そして、振り下りでは、胸に含みを持たせるような姿勢で下りるようにさせることで、体の締め感覚を養えるようにする。同時に、下半身の締め(股関節の内転及び内旋、膝関節の伸展及び足関節の屈曲)を意識しながら振らせることで、下半身を締める感覚も同時に養っていけるようにする。

組み合わせ技においては、ツバメの姿勢を重視した指導を行っていく。器械運動で技を行う上では、力の伝導が必要不可欠であり、そのためには体の引き締めとそれによる支点の固定が重要である。ツバメの姿勢は、脇を締め、肘を伸ばし、支点を腰にし、下半身を締め上方に反らす姿勢で、これは全ての技に通ずる、鉄棒運動において最も重要視すべき姿勢である。この姿勢を基本姿勢として児童に意識させることで、技の習熟を確実に魅せる美しい演技にこだわらせるようにする。この意識については、感覚づくりの運動から常にもたせるようにし、鉄棒運動の技の習得に必要な感覚を身に付けられるようにすることで、児童の技能向上に結び付けられるようにする。

前方支持回転については、補助あり前方支持回転、前方支持回転、前方伸膝支持回転の3種類のお手本動画を用意し、自分の力に合ったものを選んで視聴できるようにすることで、児童の個別最適な学びを支える。また、組み合わせ技では、いくつかの例示動画を用意しておくとともに、児童が第5時で作成したもののの中で、例示にない組み合わせ技についても用意することで、個別最適な学びを最大限に実現する工夫を行う。

技能低位の児童が自分にあったやり方で技能を身に付けていけるように、補助具や児童同士の補助を充実させていく。児童同士で補助し合うにあたっては、体格の差も考慮しつつ、グループを組むように配慮する。

また、グループのメンバーの必要とする補助のタイミングについて理解させることも必要である。教師の声かけはもちろん、児童同士が相互の技能について理解している状況になるようにしていく。

(2) 思考力、判断力、表現力等

自分の課題を見つけて、それを解決するための解決方法や練習方法を考え、実践して振り返ることが、鉄棒運動に限らず、これからの人生において未知の状況に出会った時にも児童の自己実現を支えるために必要になってくると考えている。そこで、「つかむ、考える、試す」の学びの段階をサイクルしながら学習を進める「学びのサイクル」を授業の流れとして確立することで、授業だけでなく、将来にも生かせる思考力、判断力、表現力等を児童に身に付けさせるようにする。

また、本單元では、個人学びや友達との学び合いを効果的に活用させることにより、自分の課題を見つけてそれを解決するための解決方法や練習方法を選ぶことのできる児童を育てたい。そのために、個人学びの場と学び合いの場を分け、自分の学びの段階に応じて練習する場を選択できるように学習形態を工夫していく。選ぶ際には、どの場を選択すべきか児童が適切に判断できるように教師がサポートしていく。

ICTを思考力・判断力・表現力等の育成のためのサポートツールとして活用する。先述のお手本動画を活用することで、個人学びでの課題発見や友達との学び合いに生かすことができるようにする。また、後追い再生機能付きのタブレットをトレーニングゾーンに設置することで、現在の自分の課題に気付きやすくなるようにする。児童が自分の課題を見つけた後には、どのようにしてその課題を解決するか、その解決方法をどのような練習方法で実践していくかを思考、判断していくことになる。また、友達の試技を見て課題を伝える際には、どのような言葉でそれを表現するかを考えて発言することになる。そのような時に、その手助けとなるようなヒントカードを用意し、児童が適切に思考、判断、表現できるように支援する。このカードを各グループに1セット用意しておくことで、必要な時にすぐを使用できるようにする。

(3) 学びに向かう力・人間性等

この単元の学習を通して、何事にも前向きに、粘り強く取り組む気力あふれる児童を育成するために、成功体験をたくさん積み、自己有能感を高めることができる授業の工夫をしていく。

具体的には、鉄棒運動の基礎的な感覚を身に付けられる感覚づくりの運動を構成する。低位の児童でも行える運動を取り入れ、適切に行えている時には積極的に称賛していく。この活動を繰り返していくことで高まってきた運動感覚がその後の運動でも生かしていた時にはさらに称賛し、児童がもっとやりたいと思えるような授業の雰囲気づくりを行っていく。

また、児童が主体的に学ぶ態度を育成するために、先述の通り、単元を通して取り組むパワーアップタイムの在り方を、単元前半から後半にかけて変化させていく。第1時は全員同じ内容に取り組むが、第2時から少しずつ選択の幅を広げていくことで、自分の力に合った選択ができる可能性を広げていく。これにより、児童のやる気を引き出し、主体的に学ぶ態度を育成することに繋げていく。

そして、先述の学習形態の工夫を、児童の学びに向かう力、人間性等を育成するための一助としていく。グループは同程度の技能を持ったもの同士とし、同じ視点を持って互いを高め合っていくことのできるようになっていく。そして、隣り合ったグループは技能に差がある配置にすることで、異なった視点での学び合いも移動を最小限にして行えるようにする。また、個人学びの場、学び合いの場の2つの場を常に自分で選択できるようにすることで、個人学びと学び合いの双方のよさを生かしながら学習に取り組むことができるようにする。この学習形態の工夫により、児童の主体的な学びをサポートし、学びに向かう力、人間性等を育成していく。

【研究主題】 気力あふれる児童の育成
～運動好きを増やし、目標や困難に立ち向かう力を育む実践を通して～

【仮説】①「価値あるざっくばらんな関わり合い活動」を取り入れた授業を行えば、多様な資質・能力が育まれ、運動大好きな児童を育成することができるであろう。
※仮説②「教科外での体育的活動を充実させれば、成功体験を積み重ねられ、目標や困難に立ち向かう児童を育成することができるであろう。」は教科外体育のことなので、授業では検証しない。

〈手立て〉 「価値あるざっくばらんな関わり合い活動」を取り入れた授業

本単元においての「価値あるざっくばらんな関わり合い活動」の定義について

価値あるざっくばらんな関わり合い活動は、個別最適な学びと協働的な学びが相互に関わり合って、主体的・対話的で深い学びが行われている活動である。6年生は、その最終的なゴールとなる学年である。

そこで、本単元においての「価値あるざっくばらんな関わり合い活動」のゴール像を、友達とともに演技を高め合うために、学び合いに対する必要感をもち、効果的な声かけや補助の仕方を考えながら学習する【協働的な学び（仲間との関わり合い、高め合い）】 + 自己の学習の習熟状況を把握し、自分に合った練習方法や学習の段階に応じた学習形態を選択しながら学習する【個別最適な学び（自己内対話）】 姿とする。

○「児童が必要感をもつ」教師の働きかけ

- ・「価値あるざっくばらん」を完成させる単元計画

単元前半(第1時～第4時)：ざっくばらんの土台づくり

関わり合うための知識及び技能（運動の行い方・補助の仕方）の習得

関わり合うための学びに向かう力，人間性等（主体的に学ぶ態度・学び合いの必要感）の醸成

単元後半（第5時～第7時）ざっくばらんの完成

関わり合うために得た知識及び技能の活用

必要感をもった上での学習形態の選択

- ・児童に考えさせる効果的な声かけ

学習の段階の調整を促す

「自分の課題を見つけるにはどうすればいい？」

「自分の課題を解決するには何が必要だろう？」

「練習方法を試したら、出来栄を確認してみよう」

学び合いに必要感をもたせる

「課題が解決できたかどうか、友達に見てもらって確認しよう」

「自分で課題を見つけられなかったらどうしたらいいかな？」

「他にどんな練習方法が考えられるか、友達と相談してみよう」

○「児童が必要感をもつ」教材・教具の工夫

- ・技のポイントと得意な友達が分かる「技ボード」
- ・自分の学習の習熟状況に合わせて選べる組み合わせ技の実践
- ・学習の段階を示す「学びのサイクル」ホワイトボード

5 単元の目標

- (1) 鉄棒運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることや、選んだ技を自己やグループで繰り返したり組み合わせたりすることができる。 【知識及び技能】
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①基本的な技の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②自己の能力に適した支持系の基本的な技ができる。 ③技の組み合わせ方について、言ったり書いたりしている。 ④技を組み合わせる行うことができる。	①友達と意見を伝え合ったり、ICT機器を活用したりして、自己の課題を見つけている。 ②課題の解決に向けて、自分に合った場や練習方法を選んでいる。	①友達と協力して準備や片付けをし、約束や決まりを守って運動している。 ②友達と動きを見合い、互いの考えを認め合いながら意見を交流している。 ③学習に粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次に繋げようとしている。

7 単元の計画

(1) 領域（器械・器具を使った運動遊び・器械運動の取り上げ方）

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
固定施設を使った運動遊び	4時間	7時間				
マット運動（遊び）	8時間	9時間	8時間	8時間	9時間	9時間
鉄棒運動（遊び）	5時間	5時間	8時間	7時間	7時間	7時間
跳び箱運動（遊び）	8時間	8時間	8時間	8時間	8時間	8時間

(2) 領域の内容（鉄棒を使った運動遊び・鉄棒運動）と目指す動き

学年	内容	目指す動き
1	鉄棒を使った運動遊び	○鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりするなどして遊ぶこと。
2	鉄棒を使った運動遊び	○鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりするなどして遊ぶこと。
3	膝掛け振り上がり 後方片膝掛け回転	○片膝を鉄棒に掛け、腕を曲げて体を引きつけながら、掛けていない足を前後に大きく振動させ、振動に合わせて前方へ回転し手首を返ししながら上ること。 ○前後開脚の支持の姿勢から後方へ上体と後ろ足を大きく振り出し、片膝を掛けて回転し、手首を返ししながら前後開脚の支持の姿勢に戻る。
4	前方片膝掛け回転 転向前下り	○逆手で鉄棒を持ち、前後開脚の姿勢から前方へ上体を大きく振り出して、膝を掛けて回転し、手首を返ししながら前後開脚の姿勢に戻る。 ○前後開脚の支持の姿勢から前に出した足と同じ側の手を逆手に持ちかえ、反対側の手を放しながら後ろの足を前に出し、逆手に持ちかえた手は握ったままで横向きに着地すること。
5	後方支持回転 組み合わせ技	○支持の姿勢から腰と膝を曲げたまま体を後方に勢いよく倒し、腹を鉄棒に掛けたまま回転し、手首を返して支持の姿勢に戻る。 ○自己の能力に適したひざ掛け系の技を選んで組み合わせること。
6	前方支持回転 組み合わせ技	○支持の姿勢から腰と膝を曲げ、体を前方に勢いよく倒して腹を掛けて回転し、その勢いを利用して手首を返ししながら支持の姿勢に戻る。 ○自己の能力に適した腕支持系の技を選んで組み合わせること。

(3) 指導と評価の計画 (全7時間)

時	1	2	3	4	5	⑥	7
ね	学習の進め方や約束を知り、今の自分の力を試そう。	前方支持回転のポイントを見つけて、友達と伝え合いながら見つけ、練習方法を選んで練習しよう。	前方支持回転をするための自分の課題を友達と伝え合いながら見つけ、練習方法を選んで練習しよう。	前方支持回転をできるようにしましょう。	腕支持系の技を組み合わせた演技をつくろう。	より良い演技にするための自分の課題を見つけて、場や練習方法を選んで練習しよう。	6-1 鉄棒演技発表会をしよう。
い	○学習の行い方 ○準備、片付けの仕方 ○感覚つくりの運動の行い方 ○話し運動 ○ポイントの見つけ方 ○学び合いの仕方	○前方支持回転の行い方 ○ポイントの見つけ方	○自分の課題の見つけ方 ○課題の解決の仕方 ○補助の仕方	○前方支持回転のポイント	○組み合わせ技の構成 ○組み合わせ技の行い方	○課題の見つけ方 ・技の構成 ・つなぎの部分の動き ○学び合いの仕方 ・お手本動画の活用 ・見る視点	○6-1 鉄棒演技発表会の行い方 ○友達の演技の見方
指							
導							
の							
内							
容							
3	本時のねらいを確認する。						
4	学習の進め方や場の準備の仕方を確認する						
5	感覚つくりの運動を行う。						
6	試しの運動を行う。						
7	単元の見直しをもつ。						
8	学習の振り返りりとまとめをする。						
9	場の片付けをする。						
10	整理運動をする。						
学							
習							
過							
程							
6	お手本動画を参考に、前方支持回転のポイントを考えながら練習に取り組み【ポイント】 ○大きく倒れ込むこと ○膝と腰を曲げ、腰で鉄棒を挟み込むようにして回ること ○小さくなるタイミングを掴むこと ○一気に小さくなること ○脇を締め、最後に手を返ししながら鉄棒を押し上げて起き上がる	前方支持回転の練習をする。 ・前方支持回転の練習をする	前方支持回転をできるようにするための、練習方法を考えて練習する。 ○CTを利用したり、友達に見てもらったりしながら、自分の課題を見つけて練習する。 ○課題を見つけたら、課題の解決方法を考える。 ○1つ課題を解決できれば、また新たな課題を見つけて、解決していく。	前方支持回転の練習をする。 ○できるようなになったら、グループの子に見てもらおう。 ○できたら、さらに質を高める練習をしたり、技を組み合わせた練習をする。 ※前方支持回転を達成した児童は、次時に向けて前方支持回転と他の技を組み合わせる練習をする。	後方支持回転や前方支持回転を入れた組み合わせ技の構成を考える。 ○上がり技から下り技までの構成を考える。 ○実際に試しながら構成を考えたり、修正したりする。	自分で考えた演技の、自分の課題を見つけ、練習方法を考えながら練習する。 ○CTを利用したり、友達に見てもらったりしながら、自分の課題を見つけて練習する。 ○課題を見つけたら、課題の解決方法を考える。 ○1つ課題を解決できれば、また新たな課題を見つけて、解決していく。	6-1 鉄棒演技発表会をする。 【友達の演技の見方】 ○演技が終わったら、拍手をして称賛する。 ○スムーズにできているかの点について、良かったところを認め合う。
3	感覚つくりの運動をする。 ①反りくぐり・・・正しい振り方、手首の返し、振る感覚、反り感覚 ②とび上がり、振り下り・・・脇の締め、鉄棒を押すこと、腕支持感覚、脱力一引き締め感覚、振る感覚、胸の含み ③前回り下り・・・腕支持感覚、大きく倒れ込む感覚、脇の締め、手首の返し ④抱え込み前回り・・・回転軸の固定、小さくなるタイミングを掴むこと ④逆上がり（とび上がり）一布回干し一前回り下り・・・逆さ感覚、腕支持感覚、脱力一引き締め感覚、手首の返し、脇の締め、大きく倒れ込むこと、一連の流れを確認する	4 パワーアップタイム改 ・前方支持回転の練習をする ・前方支持回転の練習をする	4 パワーアップタイム ・上がり技、回転技、下り技の中から選んで練習する ・もう少しできそうな回転技の練習をする ・新たな技に挑戦する ・質を高めたい技				4 演技練習をする。 ・鉄棒演技発表会に向けた演技練習を行う
1.集合、整列、挨拶をする。2.準備運動をする。							
2 場の準備をする。							
7 場の片付けをする。8 学習のまとめと振り返りをする。9 整理運動をする。10 あいさつをする。							
知・技	①	②	③	④			
思・判・表		①			②		
態度	①	③		②			
方法	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察
場面	1・4・6・9	6・8	6・8	6	3・4・6・8	6・8	6

8 本時の学習と指導（6／7時）

(1) 本時の目標

よりよい演技にするための自分の課題を見つけて、場や練習方法を選んで練習している。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 準備

- ・固定鉄棒 ・移動鉄棒 ・マット ・タブレット ・大型テレビ ・学習カード ・タオル
- ・柔らかいマット ・雑巾 ・メビウスの輪 ・ホワイトボード ・マーカー ・炭酸マグネシウム

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導場の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 5分	<p>1 集合，整列，健康観察，挨拶をする。</p> <p>2 集団走、準備運動をする。 ・屈伸 ・深く伸脚 ・前後屈 ・手首足首の回旋 ・首の回旋</p> <p>3 場の準備をする。</p>	<p>○素早く集合し，身だしなみを整え，元気のよいあいさつで授業を始める。</p> <p>○表情や動きから健康状態を把握する。</p> <p>○学級目標である「一致団結」を意識することで，授業への士気を高められるようにする。</p> <p>○一つ一つの動きを正確に行い，各部位の動きが高まるように声かけをする。</p> <p>○必要な動きを厳選する。</p> <p>○安全に留意し，素早く行うことができるようにする。</p>
展開 10分	<p>4 感覚づくりの運動をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>感覚づくりの運動</p> <p>①反りくぐり</p> <p>②跳び上がり，振り下り</p> <p>③前回り下り</p> <p>④抱え込み前回り</p> <p>⑤逆上がり（跳び上がり）ーツバメ ー布団干しーツバメー前回り下り</p> </div>	<p>○鉄棒運動を行う上で大切な感覚が身に付くように，正しいやり方で行うことができるようにする。</p> <p>○グループでアドバイスをし合いながら行うことで，相互に高め合うことのできる環境を整えられるようにする。</p> <p>○腕支持感覚，逆さ感覚，振る感覚，回る感覚，バランス感覚，締め感覚など，鉄棒運動を行う際に必要な運動感覚を全員が身に付けられるように運動を構成する。</p> <p>○それぞれの運動で身に付ける運動感覚を児童が意識しながら運動できるようにするために，ポイントを常に声掛けしていくようにする。</p> <p>○技を組み合わせる際に必要となる体の動きを制御する力を身に付けられるように，ツバメの姿勢を大切にす。</p>

5 パワーアップタイム∞

○上がり技、回転技、下り技の中からもう少しでできそうな技や新たな技、質を高めたい技に取り組む

腕支持系

逆上がり

後方支持回転

前方支持回転

踏み越し下り

棒下振り出し下り

○技の質を高める

- ・膝を伸ばす
- ・姿勢を制御する

○新たな技に挑戦する

- ・発展技に挑戦する

○新たな上がり技や下り技に取り組む

○上がり技や下り技の質を高める

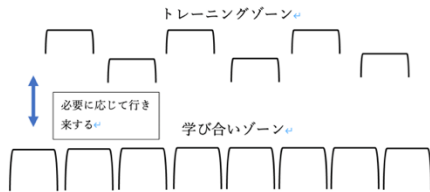
膝掛け系

膝掛け上がり

後方片膝掛け回転

前方片膝掛け回転

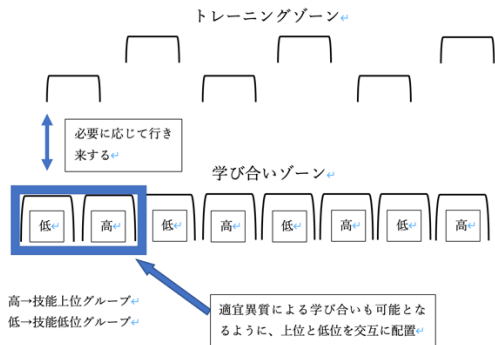
転向前下り



より良い演技にするための自分の課題を見つけ、場や練習方法を選んで練習しよう。

6 本時のねらいを確認する。

7 自分の課題を見つけ、解決方法を考える。



○トレーニングゾーン、学び合いゾーンの2つの場から、今の自分に合った場を選択しながら取り組めるようにする。

・トレーニングゾーン

1人で黙々と練習に取り組む場

・学び合いゾーン

友達と見合い、アドバイスし合いながら練習に取り組む場

○トレーニングゾーンでは、1人でも自分の姿が確認できるように、後追い再生の機能を利用できるタブレットを場を用意しておく。

○1人で研究したり、学び合いをしたりする上で必要な技ごとのコツが分かる掲示物を用意しておくことで、個人学びや学び合いの手助けになるようにする。

○児童に場の選び方を指導しておくとともに、活動中に教師が場を巡回しながら適宜指導し、修正していくことで、場の選択が適切に行われるようにする。

○事前に撮っておいたお手本動画を大型テレビで映し出しながら、教師が実演し、演技にどのような課題があるのかを話し合う。

○お手本動画との比較を行うことで、適切に教具を使えるようにする。

○課題の例とその解決方法を一覧にした掲示物を紹介し、この後の活動で生かせるようにする。

○課題の例

- ・技の完成度が低く、ツバメの姿勢になれない
- ・逆上がり→後方支持回転でむだな動きがある
- ・前方支持回転からツバメの姿勢にもっていけない
- ・片足踏み越し下りをするまでに時間がかかる
- ・膝が曲がっている
- ・足がばらけている

○適切な場を選んで練習に取り組めるようにする。

○児童に場の選び方を指導しておくとともに、活動中に教師が適宜指導し、修正していくことで、場の選択が適切に行われるようにする。

		<p>・児童への場の選び方の指導</p> <p>①学習の段階ごとに、どのような学習が必要なのか。</p> <p>②現在の自分の学習の段階がどこにあるのか。</p> <p>③それぞれの場にはどのような特徴があり、学習にどのように生かせるのか</p> <p>④効果的に学習するためにはどの場を使うのが有効か</p> <p>・活動中の教師の指導</p> <p>各グループにホワイトボードを準備しておき、一人一人の現在の学習の段階が目で見分けるようにマグネットで示しておく。教師はそれを確認しながら各場を見回る。</p> <p>適切に選べていないと判断される児童がいた場合には、その場で指導し、適切な場へ移動するよう声かけをする。</p> <p>○教師は、見回りながら児童の進捗状況を確認し、自分の課題を適切に見つけだしている児童を紹介することで、全体に広める。</p> <p>○学習を思うように進められていない児童には、適宜声かけを行い、自分の課題に気付くようにしたり、グループを巻き込んで補助発問を行うことで学び合いを活性化させたりすることで、学びをサポートできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>よりよい演技にするための自分の課題を見つけて、場や練習方法を選んで練習している</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>△努力を要すると判断される状況（C）の児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の演技を動画で撮り、一緒に確認することで課題を引き出していく。 ・グループのメンバーと一緒に演技を確認し、該当児童の課題について一緒に考えることで引き出していく。 ・掲示物を一緒に見ながら、課題の解決方法を引き出していく ・補助をしながら励ましや修正の声かけをする。 ・ヒントカードを一緒に見ながら、適切な思考、判断、表現へと導いていく。 <p>◎十分に満足できると判断される状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を把握し、それを表現するとともに、解決方法についてグループで話し合いながら考えている。 </div>
<p>整理 7分</p>	<p>8 場の片付けをする。</p> <p>9 学習のまとめと振り返りをする。</p> <p>10 整理運動、あいさつをする。</p>	<p>○安全に留意し、素早く片付けることができるようにする。</p> <p>○本時の学習を振り返り、児童の努力を賞賛することで、次時への意欲付けを図る。</p> <p>○使った筋肉をほぐすようにゆっくりと行えるようにする。</p>

(4) 場の設定

